

米CPI伸び率鈍化で利上げペース減速期待高まる

ポイント① 米CPIは市場予想以上に鈍化

11月10日に発表された10月の米CPI（消費者物価指数）は、前年同月比7.7%上昇（前月比0.4%上昇）と今年2月以来の8%割れとなりました。変動の大きいエネルギーと食品を除くコアCPIは同6.3%上昇（前月比0.3%上昇）と、40年ぶりの高水準だった9月から減速しました。どちらも市場予想を下回る結果となりました。

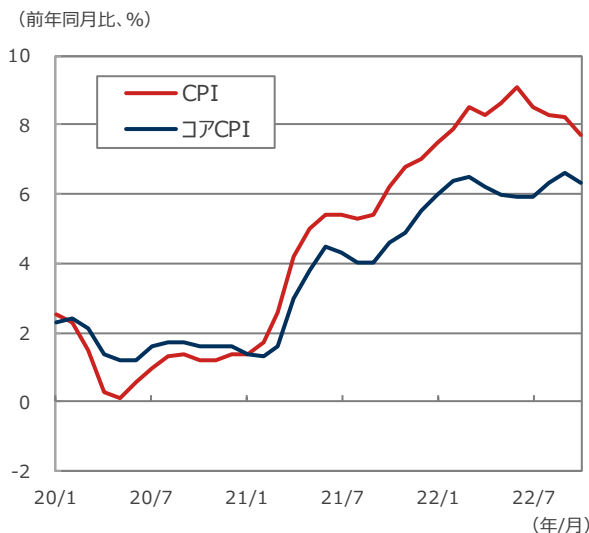
ポイント② 住居費は依然高い伸び

米インフレ動向を項目別に前年同月比で見ると、サービス部門以外は減速し、エネルギーは17.6%上昇、食品は10.9%上昇、財は6.3%上昇と、3部門とも上昇幅は9月よりも縮小しました。ガスや中古車の価格が前月比で低下したことなどが、上昇の抑制につながりました。一方、サービスは6.7%上昇と伸び率は9月から横ばいとなりました。構成比が大きい家賃を中心とする住居費が6.9%上昇と高い伸びが続いていることが、伸び鈍化を阻みました。

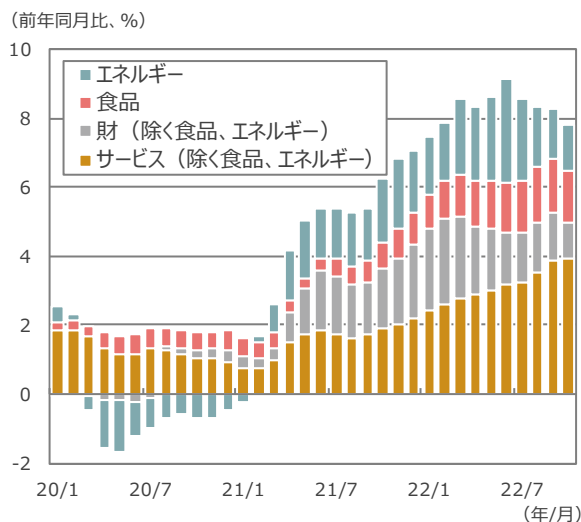
ポイント③ 利上げペース減速期待高まる

今回のCPI発表を受け、市場では12月のFOMC（米連邦公開市場委員会）での利上げ幅がこれまでの0.75%から0.5%に縮小するとの見方が強まりました。こうした利上げペース減速期待から、米10年国債利回りが4%を大きく下回るなど、大幅低下、米国株は金利敏感とされるハイテク株や不動産株がけん引して大幅高となりました。また、為替は10日の米国時間で一時1米ドル＝140円台まで円高・米ドル安が進み、11日の日本時間でも141～142円程度で推移しています。

米CPIの推移



米CPIの項目別寄与度の推移



重要 イベント	11月16日	米小売売上高、米鉱工業生産指数（10月）
	11月23日	米製造業・サービス業PMI（購買担当者景気指数）（11月）